



企業編

太洋工業株式会社九州事業所

安岐町下原384-20

設立：平成元年9月
従業員：7名



創業者の細江正己さんは、エレクトロフォーミングというメッキ技術で金属製品を成形する技術を学び、和歌山県において昭和35年12月に太洋工業株式会社を創業しました。創業当初は、彫刻によって布地にデザインを印刷するための捺染用ロールを製造していました。昭和50年代には繊維産業の主流が東南アジアに移り、新たな事業を模索している際に、大手家電メーカーから電子基板の製造の依頼がありました。めっき・エッチング技術を活かして高精度に成形した電子基板は評判を呼び、その後も電子部品の製造の依頼が増えていきました。さらに、大手印刷メーカーからの依頼で、つなぎ目のない印刷用ドラムの開発が進み、製造する工場が必要になりました。工場用地を探していた細江正己さんは、エレクトロニクス産業が多く集積している大分

第一次産業編

農事組合法人龍神の郷

武蔵町内田

設立：平成29年3月
組合員：51名



内田地区は、武蔵町の中でも有数の農業が盛んな地域で、全体で約37ヘクタールの農地を数人の担い手農家が管理する状況でした。設立者の穴見清敏さんは、10年前に県外から帰郷した際に、担い手農家の多くが70歳を過ぎており、このままでは、地域の農業環境を保全していくのは難しいと感じました。そこで、地域が一体となって農村環境を保全していくために、地域内から有志を募って平成24年4月に内田営農組合龍神の郷を設立しました。トラクターや田植え機などの農業機械一式を無償で提供する代わりに永代農地を管理してほしいとの申し出がいくつもあり、農業機械は新規に購入することはありませんでした。設立当初の組合員34名は、農業未経験者

商工会編

カットハウストバ

国見町竹田津

設立：昭和21年から
理容店を営む



左から奥さんのエミ子さん、息子の純弥さん、敏朗さん

鳥羽敏朗さんは、父の故松男さんが国見町竹田津で昭和21年に開業した鳥羽理容院を昭和50年に引き継ぎました。父の松男さんが開業した頃は、竹田津地区に5軒の理容店がありました。人がたくさん住んでおり、年末などの繁忙期には、明け方まで仕事をする親の姿を見ていたそうです。そして、敏朗さんが引き継いだ昭和50年頃には、お店は2軒に減っていたものの、昭和53年に結婚した奥さんのエミ子さんと2人でお店に出ても、午後9時過ぎまで仕事をすることもありました。しかし、そこから竹田津地区の人口減少が進み、平成12年の頃には竹田津地区唯一の理容店になってしまいました。息子の純弥さんは、小さい頃から理容店に立つ両親の姿を見て育ち、自然と将来の夢は理容師でした。敏朗さんの勧めもあり、高校時代から理容師の資格を取るために通信教育で学び、卒

県に相談して大分空港に近いことから、平成元年9月、安岐町に九州事業所を開設しました。九州事業所は、当初は印刷用ドラムを製造していましたが、平成13年頃から太洋工業の主力事業である電子基板製造の最終工程である基板に部品を取り付けるための治具となるメタルマスクの製造にも着手していきました。そして、本社はカメラ等の電子基板の製造を、九州事業所では、その基板の製造に使用するメタルマスクを生産するようになりました。その他の受注としては、他の成形技術業者からの紹介が多く、取引先は大学の研究室から多分野の企業と多岐にわたっており、マイクロレベルの高精度な加工技術をもって様々な依頼に対応しています。

古い歴史を持ち、高精度な成形ができるエレクトロフォーミング技術は、皆様が手にする製品の目に付かない部分で多く使われています。しかし、このメッキ技術は広く知られていないというのが現状です。そこで、今後は、展示会など積極的に周知活動を行い、特性をアピールし、受注の拡大につなげていきたいと考えています。

が多く、当初の450アールの農地でも管理するのは大変でした。しかし、ベテラン農家に指導を受けながら経験を重ね、高齢の担い手農家の2人が離農した際に、6ヘクタールの農地を管理できるまでになりました。設立からの5年で、県道より山側の農地は中山間地域等直接支払制度を利用し、県道より海側の農地は多目的機能支払制度を利用することで、効率的な生産活動及び経営を行えるようになってきました。そこで、更なる発展を図るため、平成29年3月に農事組合法人龍神の郷を設立しました。前回の営農組合設立の際に、未加入だった小規模個人農家も加わり、内田区の約6割にあたる51戸が参加する団体となりました。今後は、担い手農家からの農地管理を譲り受ける話も進んでおり、ますます農事組合の存在価値が高まっています。

今後は、農事組合が永代続いていく体制づくりが必要と考え、若手の育成に力を入れた結果、50代の組合員が増えてきました。法人では、これからの代表理事を予め決定し、その方を中心にして、その年代での組織強化を図っています。

業後は大分市の理容店で働きながら免許を取得しました。そのお店に勤めた13年間で、カットだけではなく総合的な理容技術を磨くため、理容競技大会に参加し、大分県大会や九州大会で優勝し、全国大会でも上位に入りました。そして、磨いた技術を活かすため、今後のことを両親と相談し、実家の理容店を継ぐことにしました。純弥さんが加わり、店名をカットハウス トバに変更して以降、若い客層も増え、大分の勤務時代の常連さんが、わざわざ通ってくるようになりました。

純弥さんは、「竹田津地区の人口が減っていく不安はあります。しかし、竹田津地区唯一の理容店として、誠心誠意のサービスを提供することで地域にとつてかけがえのない存在になりたいと思っています。また、特に若い人で国東にいるからと、自分の好きな髪型をあきらめている人の受け皿になりたくて」と語っていました。